

海士町ホテル魅力化プロジェクト ・ジオ拠点施設

提案の 概要



A. プロジェクト全体の概要

- 島根県隠岐諸島海士町に唯一あるホテル「マリポートホテル海士」を、隠岐を代表するホテルへと生まれ変わらせる計画。ホテルは町が所有し、運営は第三セクターの(株)海士が担っている。プロジェクトは大きく分けると、①旧国民宿舎部分(別館)の建て替えと②本館の改修、から構成され、複合機能として、①に隠岐ジオ・パーク拠点施設を包含する予定である。2021年4月のリニューアルオープンを目指している。

B. 提案する木造化・木質化の取り組み内容の概要

- 既存ホテル(地下1階、地上4階、延床面積約2,000m²)に、延床面積約1,950m²の増築を行うプロジェクトである。新築部分を別棟として扱うことにより、準耐火構造(60分耐火)の、地上2層約1,000m²をCLT構造で計画している。

C. 提案のアピールポイント

- 燃えしろ設計を利用し、可能な限り壁面をCLTあらわし仕上げとすることを計画。これまでの宿泊施設の木質化は、コテージ等の小規模な建物に限られていたが、本建築の実現により、中・大規模ホテルへの木質化の普及・波及効果が期待できる。



海からの外観パース

評価の ポイント



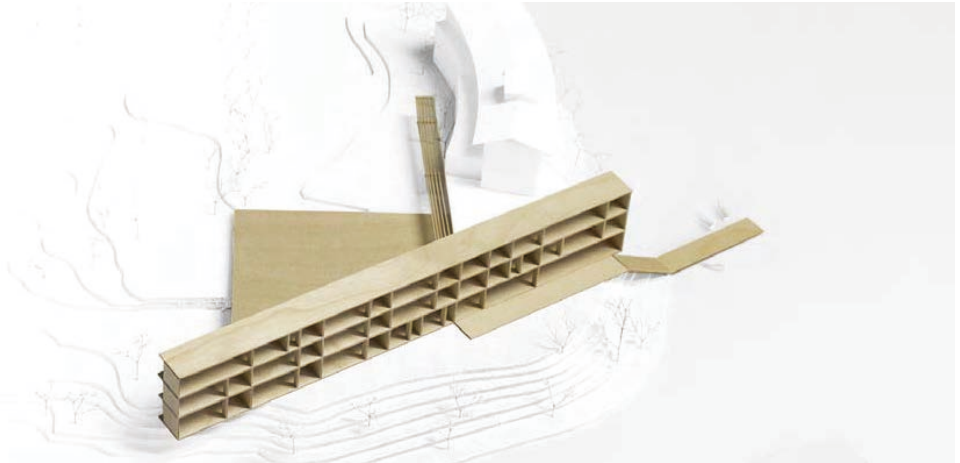
島根県隠岐諸島海士町の唯一のホテル「マリポートホテル海士」を、隠岐を代表するホテルへと生まれ変わらせるために、既存部に、延床面積約1,950m²の増築を行うプロジェクト。新築部分を別棟配置し、地上2層約1,000m²を準耐火構造(60分耐火)のCLT構造で計画している。燃えしろ設計で、可能な限り壁面をCLTあらわし仕上げとした計画である。CLTの施工は島外の施工事業者、内装等の工事は島内の事業者による施工計画であり、島嶼地域でのCLTパネル工法の施工と地域貢献の両立を図っている。以上のように、中・大規模ホテルの木造化に向けたCLTパネル工法の島嶼地域での生産システム面での先導性が認められ、普及・波及効果が期待される。

プロジェクトの
全体概要

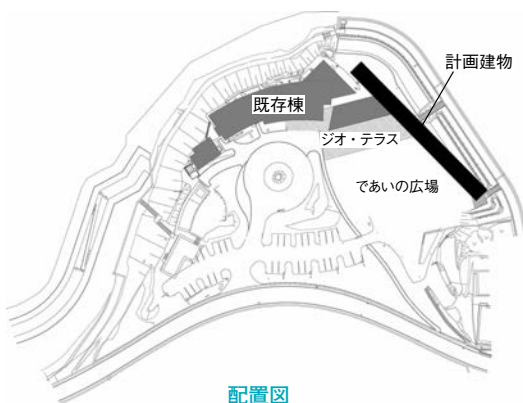
●隠岐のさまざまなつながりで実現する、そこにしかない“隠岐らしいホテル”

ユネスコ世界ジオ・パークにも登録される、島根県隠岐諸島の海辺に建つ、延床約2,000㎡のRC造のホテルの既存棟の改装と、既存棟に隣接した延床約2,000㎡の新築棟を建てる計画。

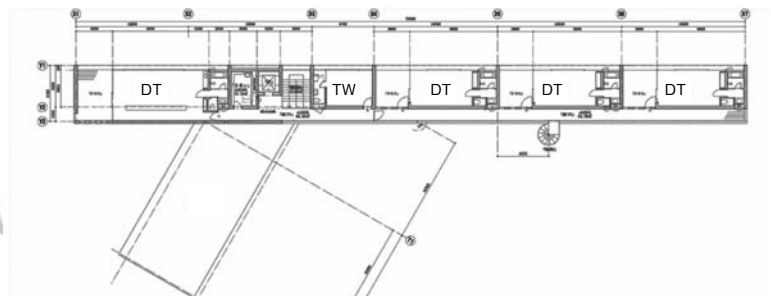
ホテルだけで滞在が完結する“従来の複合型リゾート施設”ではなく、隠岐のすべての島々と“つながる”ことで、「隠岐諸島全体が一つのホテル」となるような、「島の総合力」でもてなすホテルを目指している。建物の配置や地形との関係を適切に計画し、周囲の環境に合わせて内・外部空間を設計することで、隠岐のさまざまなつながりが生み出す開かれたホテルを実現する。



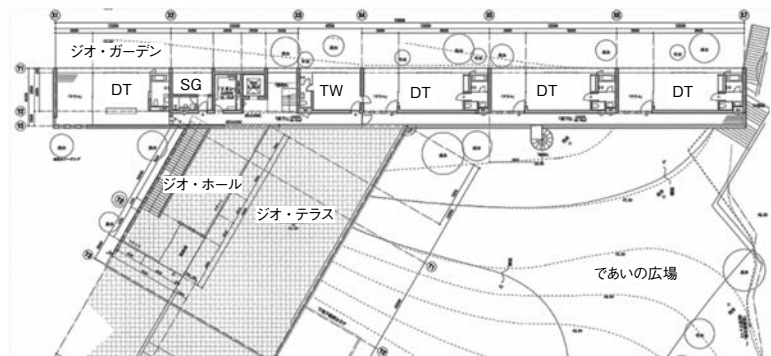
全体模型 後ろの白い部分が既存棟



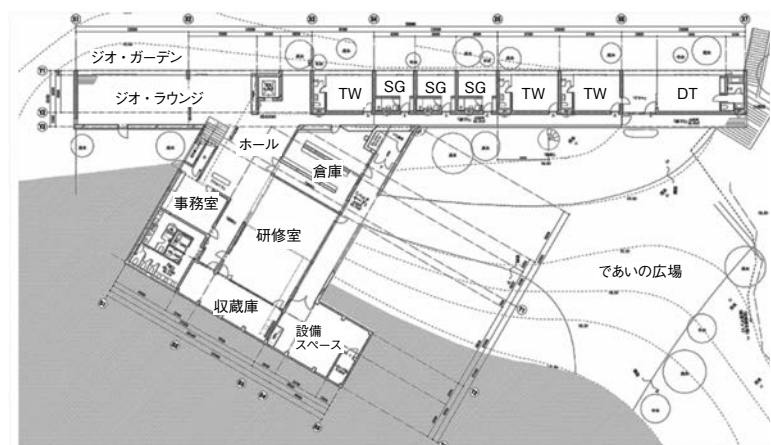
配置図



2階平面図



1階平面図



地下1階平面図

配置計画

島々とカルデラの海という『隠岐ジオ・パーク』を見渡す景観を最大限に味わうための配置計画。

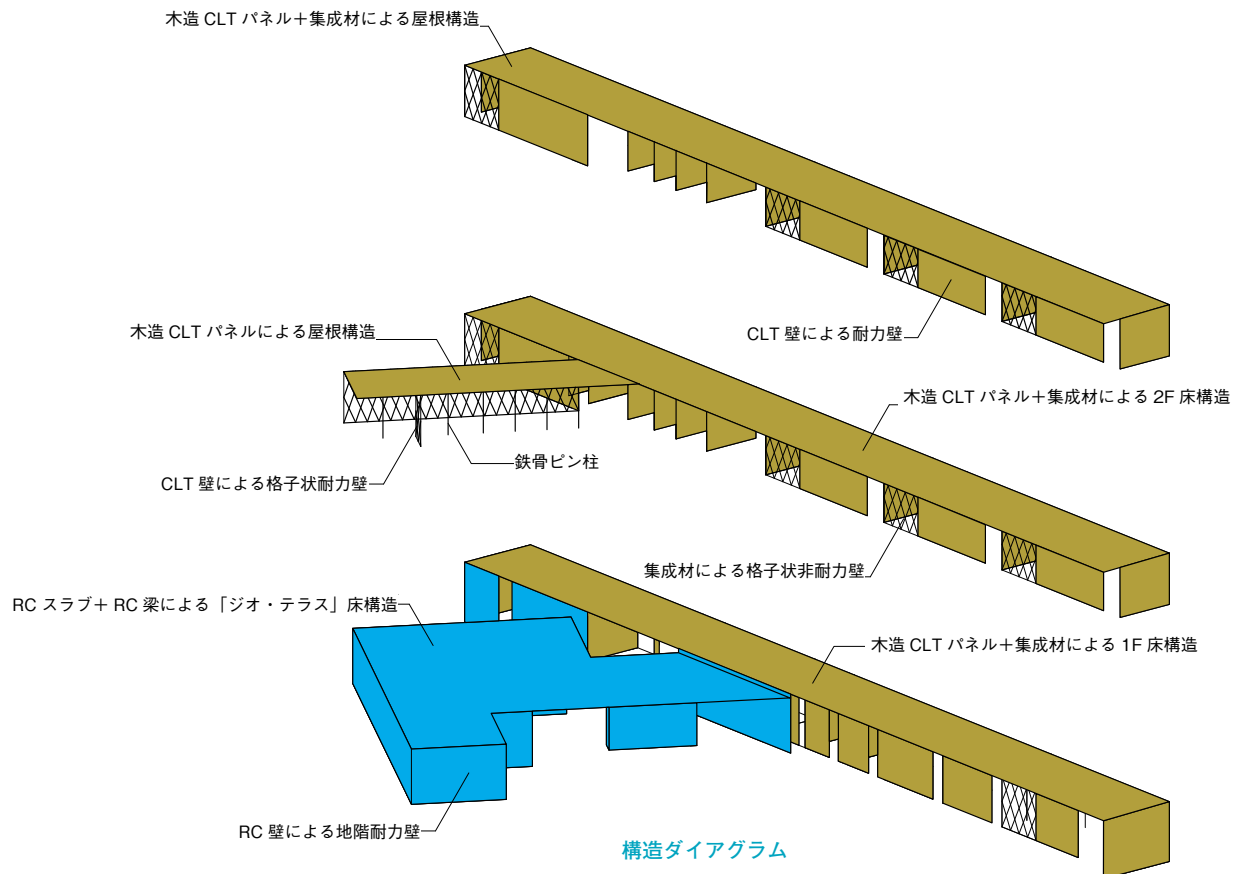
北西―南東を軸に幅広く建築を構え、すべての客室に対しその景観を確保。

地形との関係を適切に計画し、周囲の環境に合わせて内・外部の空間を設計することで、ホテル滞在中で完結せず、隠岐全体とつながりを生み出す開かれたホテルを目指している。

平面計画

魅力的な景観をもつ土地にダイレクトに滞在する宿泊体験を提供するため「間口の広い客室のプラン」とし、視界のほとんどを風景で占めることを意図している。眺望を妨げないように前面ではなく隣接して設けられたプライベートなテラスは、他の宿泊者を気にせず外部から直接出入りすることのできる“前庭”として、また内外一体のリビングとして機能する。

風景に対峙するように設けられた「ジオ・ホール」「ジオ・ラウンジ」では、ホテル全体をつなぐロビーでありながら、隠岐のさまざまな観光・産業のスポットや季節の催事を紹介する場としても活用し、「ジオ・パーク内のホテル」ならではの計画としている。



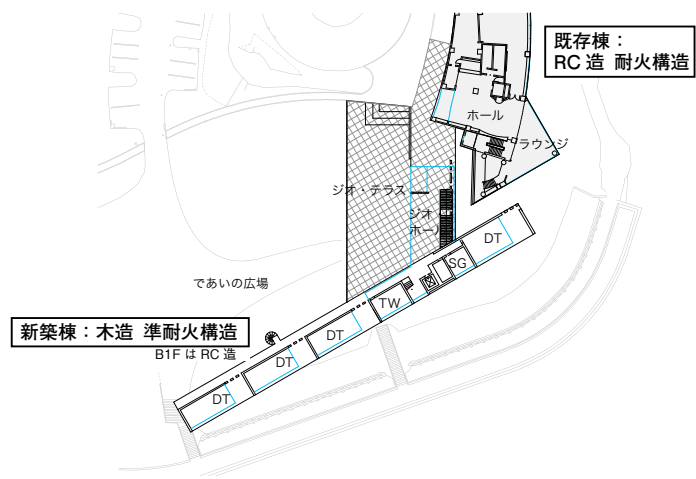
●構造計画

- ・地上階および地下階の一部において、CLT パネル工法を選択している。
- ・客室部の耐力壁は外壁や客室境の壁を利用し、各階位置を揃えて地震や風圧力に有効に抵抗する。
- ・客室部の平面的な捩じれについては短辺方向に配置した耐力壁の捩じり抵抗によって処理する計画としている。
- ・木造部と RC 造部は構造的に一体として合理的に地震力に抵抗する計画としている。
- ・1 時間準耐火構造により、CLT 壁と一部修正材の梁については燃えしろ設計を行うことにより、火災時における建物の安全性を確保する。



大きなテラスと木造新築棟

斜面がちで平場の少ない海士町に、さまざまなイベントが開催できる建築屋上の大きな広場をつくる。テラス面から2層の高さに抑えられた木造のボリュームは、圧迫感を与えず、島民と滞在者双方にとっての広場が創出される。



別棟とみなす既存棟と新築棟

適切な配置計画と別棟解釈——

燃えしろ設計により実現する準耐火構造の木造の中・大規模ホテル

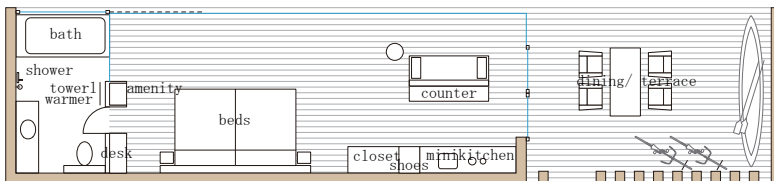
新築部分は別棟とし、燃えしろ設計を用いることにより、準耐火建築物（60分耐火）の地上2層1,000㎡をCLT構造で計画している。

ホテル全体の中心部に新設されるテラスとホールによって、新築棟と既存棟が効率的に接続され、新築棟の配置計画は、既存棟からの眺望を確保するとともに耐震性能を含めた構造としても合理的計画である。

燃えしろ設計の適用により、可能な限り壁面をCLTあらわし仕上げとし、意匠・構造・防火面における各種制限へ適切な計画のもとチャレンジすることで、中・大規模ホテルでは例のない計画を実現する。



広い間口の客室からの眺め



広い間口の客室平面図



CLT 連続壁体により可能となる“広い間口”という根本的贅沢

手つかずの島々とカルデラ海という隠岐ジオ・パークを見晴らす景観を最大限味わうために、通常のホテルの「間口：狭く／奥行き：深く」を「間口：広く／奥行き：浅く」へと反転している。視界の大半は隠岐の風景で占められ、「始原の地球を感じさせる風景の只中でくつろぎ、眠る」という、他では得難い宿泊経験をゲストに提供する。

間口が広く、奥行きが浅い空間では、すべての場所が風景と隣り合う。新築棟客室の浴室は、間口の広さを活かし、景色のよいビュー・バスとして設えている。

また、客室前面ではなく、隣接して設けられた室内の半分の面積を持つ広々としたテラスは、他の宿泊者を気にせずにくつろげる客室を実現し、木製建具を開け放てば、内外一体のリビングとなる。本格的な食事はもちろん、外部から直接アクセスできるため、さまざまなアウトドアスポーツの準備の場所としても活用できる。

隠岐の風景を眺めながらの、ゆったりくつろぐプライベートなバスタイムの提供、絶景を前にした内外を分け隔てなく使うリビングスタイルもまた、強度を持った CLT の連続壁体により獲得される平面計画の自由度により実現し、燃えしる設計により可能となる CLT あらわしの仕上、木質の内装や家具が、その質を保証する。

プロジェクト データ



提案者（事業者・建築主）、設計者・施工者、建設地は
扉頁参照

建物名称：マリンポートホテル海士
 主要用途：宿泊施設・文化施設
 主要構造：木造化（□軸組構法 □枠組壁工法 □丸太組構法 ■その他（CLT パネル構法））
 防火地域等の区分：□防火地域 □準防火地域 □法22 条区域 ■その他の地域
 耐火建築物等の要件：□耐火建築物 ■準耐火建築物（60 分耐火） □準耐火建築物（45 分耐火）
 □その他の建築物

敷地面積：5,666.21㎡

建築面積：781.32㎡

延べ面積：1,639.67㎡

軒 高：13.24m

最高の高さ：13.39m

階 数：地上 2 階、地下 1 階

構造用木材使用量：602.787㎡

うち CLT、LVL 等の使用量：602.787㎡

事業期間：平成 30 年 8 月～令和 3 年 3 月

補助対象事業費：1,266,803 千円

補助限度額：194,200 千円



地下 1 階ジオ・ホールとジオ・テラスのイメージパース



1 階ホール・ラウンジのイメージパース